令和7年度使用

中学校用教科用図書研究資料

理科

令和6年7月

教科用図書南那珂採択地区協議会

1 教科目標の達成及び単元(題材)の構成・配列等

〔観点Ⅰ〕 学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等について、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概解評
	(1) 理科の目標を達成するために、学習の流れやポイントを「見
	える化」するとともに、単元内に「じっくり探究」を設け、よ
2 東 書	り深く探究することができるようにしている。また、章ごとに
	「Before&After」があり、生徒が見通しをもって学習に取り
	組み、学習前後の自分の考えの変容を実感できるような構成・
	配列等の工夫が見られる。
	(1) 理科の目標を達成するために、単元の導入において「これま
	でに学習したこと」「これから学習すること」を設け、既習事
4 大日本	項を振り返り、見通しをもった学習を行うことができるよう
	にしている。また、単元末では「探究活動」に取り組み、既習
	事項を使って新たな課題を解決することにより、さらに学び
	が深くなるような構成・配列等の工夫が見られる。
	(1) 理科の目標を達成するために、「探究のページ」において、
	探究の手法を段階的に理解しやすい構成にしている。また、
	「学びのあしあと」「Can-Do List」等を設け、生徒が単元全
	体や学習内容の見通しをもって学習に取り組み、学習後にど
	のような力が身に付き、考えがどう深まったかを生徒自身が
	実感できるような構成・配列等の工夫が見られる。
	(1) 理科の目標を達成するために、巻頭に「探究の進め方」の折
	り込みを設け、本文ページを開いた状態でも、探究の過程を確
17 教 出	認しながら学習できるようにしている。また、章の導入と章末
	において、「学習前の私」「学習後の私」をそれぞれ設け、学
	びの深まりを生徒自身が認識できるような構成・配列等の工
	夫が見られる。
	(1) 理科の目標を達成するために、単元の導入において、「学び
	の見通し」「学ぶ前にトライ!」を設け、様々な知識を活用し
61 啓林館	て解決することのできる問いを設定し、課題意識をもって学
	習に取り組むことができるようにしている。また、同じ問い
	を、単元末に「学んだ後にリトライ!」として設け、科学的に
	探究できるような構成・配列等の工夫が見られる。

2 内容や指導の充実

[観点2] 主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身 に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。

発 行 者 概 評	
(1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、	各節の導
入の「レッツ スタート!」において生徒が自ら気	,付きを得ら
れるように問題を示している。また、「理科の見え	ち・考え方」
を設定し、生徒に見方・考え方を具体的に示すなと	、対話を促
したり、学びを深めたりするような工夫が見られ	る。
(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、	章末に「学
んだことをチェックしよう」を設定するとともに、	単元末に「
2 東 書 学習内容の整理」「確かめ問題」「活用問題」を設	はけ、自己チ
ェックすることで、理解できるまで学習しやすくな	るようなエ
夫が見られる。	
(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表	現力等」を
育成するために、「学びを生活や社会に広げよ	う」で、学
習したことを他教科と関連付けたり、日常生	上活 や 社 会
に結び付けたりし、自分の考えを表現できる	る場面を設
定するなどの工夫が見られる。	
(1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、	各学年で重
視する探究の過程を示し、探究の場面を明確にする	ことで、主
体的な学習を促している。また、「話し合おう」な	どの対話的
活動を設定することで、深い学びが実現できるよう	な工夫が見
られる。	
(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、	つまずきや
すい内容では、「つながる」で他学年、他教科との	関連や「例
4 大日本 題」で解き方の見本を示し、「章末問題」「単元末	問題」へと
段階的に取り組むことで、基礎的・基本的な学習内	容を確認で
きるような工夫が見られる。	
(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表	:現力等」を
育成するために、各節で身に付けた問題解決の能力	1を、単元の
最後の「探究活動」において結び付け、連続性をも	たせること
で、3年間を通して科学的に探究するために必要な	: 資質・能力
が育成できるような工夫が見られる。	

	(1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、導入場面や
	仮説の設定、計画立案の場面等で、生徒の話合いのイラストを
	提示し、多様な考え方に触れるようにしている。また、探究の
	手法を段階的に示すことで、生徒が問題を発見し、話し合いな
	がら探究を進められるような工夫が見られる。
	(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、探究のペー
	ジと、探究活動の後に学習した内容を簡潔にまとめたページの
 	│ │ 体裁を区別し、単元末には、「学習のまとめ」を設定すること
	│ で、生徒が身に付けるべき学習内容が理解しやすくなるような
	工夫が見られる。
	(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を
	育成するために、観察・実験の明確な結果例や考察の視点を例
	示したり、コラム「理路整然」を設定し、科学的探究の手法を
	継続して学んだりすることで、科学的な考え方の理解を深める
	ような工夫が見られる。
	(I) 主体的·対話的で深い学びを展開させるために、「疑問から
	探究してみよう」を提示し、生徒キャラクターの吹き出しをも
	とに課題を自分事してとらえられるようにしている。また、課
	題の解決に向けて、生徒が対話的に学習を進め、深い学びを実
	現できるような工夫が見られる。
	(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、学習の振り
	返りとまとめができる「要点をチェック」や、理解度を確かめ
17 教 出	る問題を、章や節の最後の小さなまとまりから、学年末の大き
	なまとまりへの5段階で設定することで、学習内容を定着させ
	るような工夫が見られる。
	(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を
	` ^
	育成するために、実験結果の欄が生徒にとって書き込みやすい
	ように提示されており、さらに「私のレポート」の具体例を示
	すことで、それらを参考に論理的に自分の考えをまとめ、結論
	を導くことを促すような工夫が見られる。

(I) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、各単元に I つ「探Q実験」を設定し、「探Qシート」により生徒の主体的な学習を支援している。また、「Action活用してみよう」など、発表や活動の場面を設定することで学びを深めるような工夫が見られる。

61 啓林館

- (2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、つまずきやすい内容を「例題」で解説し、同じ考え方で解ける「練習」に取り組んだり、勘違いしやすい事項は「なるほど」で正しく理解できるよう二次元コード等で情報を示したりするなどの工夫が見られる。
- (3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を 育成するために、これまで学んだことから生じた疑問を「みん なで探Qクラブ」で解決していく過程を通して、日常生活にあ る科学を意識できるようにし、探究を継続・発展させられるよ うな工夫が見られる。

3 利便性の向上

[観点3] 学習効果や使用上の利便性を高めるとともに生徒にとって分かりやすい という視点から、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概評
	(1) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、Ⅰ見開きⅠ時
2 東 書	間構成となっており、授業の見通しを立てやすくなっている。
	また、複雑な思考をシンプルなイラスト等にして掲載するこ
	とで、生徒の学習意欲を喚起できる工夫が見られる。
	(1) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、多様なキャラ
4 大日本	クターを用いて、多面的に考えるためのヒントを提示してい
7, 1, 7,	る。また、実験のページに着目点が設定されており、生徒が見
	通しをもって学習に取り組める工夫が見られる。
	(1) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、全ページに二
 	次元コードを設け、個に応じた学びを実現している。また、章
, ,	ごとに大きな写真や SDGs のアイコンを掲載し、生徒が学習
	内容と日常生活との関連を意識できる工夫が見られる。
	(1) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、教科書のサイ
	ズや文字を大きくし、視覚的にゆったりとした紙面になって
3,7 3,7 3,7	いる。また、課題と結論を赤囲みで強調することで、生徒が課
	題と結論の整合性を意識できるような工夫が見られる。
	(I) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、ICT をどの場
61 啓林館	面でどのように使うのかを明記している。また、章ごとの
ים יון יון יון	「Review」の中で、学びの過程の振り返りを意識できるよう
	な工夫が見られる。

4 地域の願いや思い、生徒の実態等

[観点 4] 家庭や地域と連携した学習の推進とともに、生徒の確実な基礎・基本の定着という観点から、どのような工夫が見られるか。

	発	亍 者	概評
2	東	書	 (1)豊かな学びになるために、章ごとでの学習意欲を喚起するための「スタート動画」や職業とつながる「お仕事図鑑」、日常生活とつながる「社会につながる科学」のデジタルコンテンツが設定されるなどの工夫が見られる。 (2)生徒の確実な基礎・基本の定着のために、各章の終わりに「章末問題」が配置され、単元末にある「学習内容の整理」や「確かめ問題」によって、習熟を図ることができるように工夫されている。
4	大日	Ⅰ本	 (1)豊かな学びになるために、「科学館・博物館」「動物園・水族館・植物園」のデジタルコンテンツや学習内容とつながりのある「Science Press」、日常生活とつながる「くらしの中の理科」が設定されるなどの工夫が見られる。 (2)生徒の確実な基礎・基本の定着のために、「例題」「解答例」「演習」が配置され、「章末問題」「まとめ」に加え、「単元末問題」「読解力問題」によって、習熟を図ることができるように工夫されている。
11	学	3	 (1)豊かな学びになるために、理科の有用性を知る「なぜ理科を学ぶの?」や基本操作や発展的な学習を取り入れた「補充資料」、多様な質問に対応できるデジタルコンテンツ「チャットボット」が設定されるなどの工夫が見られる。 (2)生徒の確実な基礎・基本の定着のために、「課題」に対応した「まとめ」が設定され、章末と単元末に「学習のまとめ」、巻末に「計算問題」「読解力強化問題」によって、習熟を図ることができるように工夫されている。
17	教	出	 (1) 豊かな学びになるために、研究者からのメッセージ動画である「科学の扉」や生物名や気象などを調べることができる「Webずかん」、科学の話題を紹介する「ハローサイエンス」が設定されるなどの工夫が見られる。 (2) 生徒の確実な基礎・基本の定着のために、「計算しよう」「演習しよう」などが配置され、章末の「要点をチェック」「要点と重要用語の整理」によって、習熟を図ることができるように工夫されている。

61	啓 林 館	(I) 豊かな学びになるために、興味を引き出す動画「はてなスイッ
		チ」や学びの中で生徒から出た疑問をテーマとして扱った「みん
		なで探Qクラブ」、理科の有用性や日常生活とつながる「ひろが
		る世界」が設定されるなどの工夫が見られる。
		(2) 生徒の確実な基礎・基本の定着のために、二次元コードにより
		基礎問題、練習問題、動画を見て考える問題、章末の「Review」
		や単元末の「学習のまとめ」「力だめし」によって、習熟を図る
		ことができるように工夫されている。